

第九十五回フォト句優秀作品（19年5月13日）



達者でな 蛙になったら
また会おう（進一郎）



不時着のUFO
苔むす岩に化け（三春）

白一点家系譜つなぐ責を負い（和彦）



つくばいも
座禅瞑想音もなし（三春）

雲たちの

川面に空に

おらが春 (進一郎)



春来る私もひと鉢買おうかな (昌康)



桜咲き信濃の春は
今が旬（正二）

寸評：今月は票が纏まらず、低位入選句の大盤振る舞いとなった。

1) 達者でな蛙になったらまた会おう 長尾 進一郎

金魚とお玉杓子が向き合っている大変珍しいシーン。微笑ましい句が付いた今月唯一の褒められる作品だ。

2) 不時着のUFO苔むす岩に化け 三 春

京都三千院の苔蒸した岩をUFOに見立てた発想は良いが、句は画面の説明に終始してしまった。

3) 白一点家系譜つなぐ責を負い 大月 和彦

宮島の巖島神社での結婚式でのスナップ。「家系譜つなぐ」とか「責を負い」とか句全体が古めかしくかつ硬い。女性蔑視とも非難されかねない。視点を変えて「新郎の父にも軽くメーキャップ」とでも。

4) つくばいも座禪瞑想音もなし 三 春

大きな躊躇がある京都智積院のお庭の写真。苦心したらしいが句意が不明だ。座禪でもして反省すべき。

5) 雲たちの川面に空におらが春 長尾 進一郎

のんびりした画面にのんびりとした句がついた。「雲」は一字でも複数形に使える。空に雲があるのは当たり前。「おらが春」のような通俗的な措辞の使用はいただけない。「風ひとつない川面にも春の雲」では？

6) 春来たる私も一鉢買おうかな 松田 昌康

花屋の前でご主人を待っているワンちゃんは可愛いが、それだけのこと。

7) 桜咲く信濃の春は今が旬 矢澤 正二

綺麗な風景だが、「桜咲く」と「信濃の春」がカブッテいる。残雪の山を手前に引き寄せて、「遠雪嶺信濃の春は今が旬」とでもすれば…。

.....

今回、いろいろと問題点を指摘している張本人の作品には票が入らなかった。批判は簡単だが、実践となると難しいものだ。



今月の出題者は松田さん。祖谷公園での幼稚園児の遠足の風景。

1) 孫のない寂しさ胸に五月晴れ 清水 勝

小さな子供たちを見るにつけ、一抹の寂しさをかんずるが、頭上には晴れた五月の空が広がっている。心情がよくわかる句だ。

2) 子供たち見てもくれぬは鯉不貞寝 長尾 進一郎

勢いのない鯉のぼりは誰も振り向かない。子供は正直だが冷酷

3) そよ風を束ね損ねし鯉のぼり 中村 晃也

上手く風を捕まえられなかった元気のない鯉のぼり。

4) これからだカーブの上昇青い空 清水 勝

前半は不調だった広島カーブへの応援の辞。着想の転換が巧み。

最近カーブは首位を狙える位置まで上昇している。 以 上